

# 第13回伊達市総合教育会議 会 議 録

## 1 日 時

開 会 令和6年3月21日(木) 15時00分  
閉 会 令和6年3月21日(木) 16時15分

## 2 場 所

市役所本庁舎 2階会議室A・B

## 3 出席者氏名

伊達市長	堀 井 敬 太
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一

## 4 欠席した教育委員の氏名

委 員 大 西 稚 子

## 5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	岡 村 崇 央
企画財政課長	水 野 一 英
企画調整係長	三 浦 正 貴
教育委員会	
学校教育課長	今 藤 康 之
生涯学習課長	上 山 昭 二
図書館長	阿 部 博
指導室参事	本 所 章 宏
学校教育課企画総務係長	渡 邊 純 一

## 開 会 （15時00分）

### ◎水野企画財政課長

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、第13回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき協議するものです。それでは、これより先の進行は堀井市長よりお願いいたします。

### ◎堀井市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、協議第1号の1案件です。皆さまから様々なご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、協議第1号「伊達市立学校の学校評価について」を指導室参事より説明をお願いいたします。

### ◎本所指導室参事

資料は事前に送付させていただいております。お手元の方には、学校評価一覧ということで、まとめたものをご用意させていただきましたので、こちらの資料を基にご説明させていただきます。

学校評価一覧についてですが、まず、学校評価の目的というものが文部科学省から示されております。その1つを資料に記載いたしました、「各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の大切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること」という目的のもとで学校評価を行っておりますので、各学校によって学校経営方針に独特のものがありますので、質問事項が多少違っていたりするものがあります。それでも大きくまとめてということで、5つ学校への満足度や授業学力についてまとめたものになります。こちらの学校評価一覧は、後程触れたいと思いますので、まず初めに各学校の学校評価について、簡単に説明していきたいと思います。

最初に伊達小学校の学校評価についてでございます。保護者と学校評価を比べている資料になります。それで学校と保護者の温度差であったり、一致しているところをわかるようにしております。「学校を楽しみにしているか」と保護者がそう感じているかということで、黒くなっているのは昨年度より比較してマイナスになっているため、そういう表記になっていますが、数値としては-0.2%で8割は超えている状況であります。

### ◎堀井市長

学校の数値については、教員個人ごとで答えているということでしょうか。

### ◎本所指導室参事

教員個人ごとで答えたものを集計してパーセントで出しております。

評価項目2つ目、挨拶になります。学校評価が若干低くなっていますが、伊達小学校、4つの「あ」ということで、挨拶、安全、集まり、後始末というのをキーワードにして子どもたちに指導しているのですが、したら返す挨拶はできているのですが、自分から挨拶というところで学校としては改善の余地があるということで、この評価になっております。

9ページになります。こちらは保護者評価を肯定評価、否定評価ということで表したのになります。この中で肯定評価で一番高いのは、「学校からの連絡・周知体制」で95.8%、昨年度から一番上昇したのが「道徳教育の充実」で昨年度から6.1%の上昇となっております。

ます。逆に一番低い評価については、「いじめや問題行動の防止」で 86.3%、肯定評価が 8 割は超えてはいるのですが、昨年度から下がっており、全体項目の中でも一番低い項目になっております。

伊達西小学校、18 ページになります。左側が児童アンケート、右側が保護者アンケートの結果となっております。児童アンケートで一番高いのは、「先生が教えてくれる勉強はわかりやすいですか」であり、4 段階評価で 3.61 となっております。逆に低い項目としましては「家庭学習を目標としている時間」、「ゲームやスマホ等のルール」で 2 点台となっております。また、保護者アンケートにつきましては、「授業がわかりやすいですか」の部分が 3 点台と高くなっており、児童アンケートとの一致が見られ、「ゲームやスマホ等のルール」についてが児童アンケートと同じく低い結果となっております。

次のページが学校の分析になるのですが、「ゲームやスマホ等のルール」について、そもそもルールが無いという回答ですが、児童が 20.9%、保護者が 9.9% となっております。保護者と児童の認識に差があり、保護者はルールを設定しているつもりでも児童は認識していない可能性があるということで、学校でも伝えていきたいとのことでした。

長和小学校、25 ページになります。こちらは最初に保護者アンケートになりますが、「楽しい学校になっているか」、「安全安心な学びの場になっているか」、「子どもの困り感に対して素早く個別に指導・支援」が肯定評価では 100% になっています。児童数が少ない学校ですので、数字の振り幅としては大きくなってしまっているのですが、逆に低い項目としては、「読書」、「ゲームの頻度」となっており、読書については読んでいないが 82% となっております。次ページに関しては、学校評価アンケートの結果からの学校の考察・今後の取組ということで記載しております。

29 ページ以降が児童アンケートの結果になっておりますが、その中で「授業で、先生や友達が話していることがわかりますか」というところの肯定評価は 97.4% で非常に高くなっております。少人数ということもあり、行き届いているところもあると考えられます。

関内小学校、40 ページになります。こちらにつきましては保護者アンケートとなっており、「困ったことを先生に相談」と「トラブルやいじめ・不登校対応」、「学校が楽しい」という項目が 5 段階で 4.6 となっております。高い数値になっています。こちらも小規模校ならではの対応をしっかりと行っている結果かと思いますが、取り立てて低い項目については見当たらないという結果になっています。

47 ページ以降が児童アンケートになりますが、一番高い評価だったのは、「黒板の字が見やすい」という項目と、「嫌なことをされたことがある」という項目がされたことが無いという評価で高い評価になっています。丁寧な板書、文字だけではなく掲示物などの学習環境が、学力に結びついている一因になっているかと考えます。低い項目については、落ちこんでいる項目はありませんが、あえて挙げるなら「読書が好きですか」の項目については、若干低くなっているかなと考えております。

東小学校、50 ページ以降になります。まず、保護者アンケートについてですが、「お子さんは、毎日元気に登校していますか」の項目が 5 段階評価で 4.2 となっております。先生方の熱意や真剣さなどが評価されていると考えます。逆に「授業が分かりやすい」が 3.8 と若干低く、「読書習慣」、「ゲーム等のルール」が低くなっています。

続いて 54 ページ以降が児童アンケートとなりますが、「先生は頑張りを認めてくれる」が 97.7%、「学校で学んだり、友達と過ごしたりすることが楽しい」が 95.4% で高い結果となっています。一方、低い項目を見て行きますと、「自分からあいさつ」、「早寝早起き」、

「読書が好きですか」の項目が著しく低いわけではないですが9割を切っています。しかしながら、「読書が好き」が肯定評価で77.6%であり、そう思うのA評価が53.7%と、半数以上が読書が好きということは見られる結果になっています。

星の丘小中学校、保護者アンケートになります。星の丘小中学校はバウムハウス、児童心理治療施設が保護者の代わりとなり、学校と連携を図っているところですが、「生徒指導」と「特別支援教育」についての評価が低くなっています。この2つは重なるところがあり、子どもたちの様々な特性に応じた対応や関係づくり、児童生徒理解、バウムハウスとの連携が課題として挙げられています。一方、体力づくりは100%となっており、自ら設定した目標に向かって、マラソンや運動活動に対する評価が高くなっています。

児童生徒のアンケートは、その時の状態によって質問に対する回答も変わっていくので、評価しにくいところはありますが、それぞれの課題に向けて頑張っているというところは見られたかなと考えております。

伊達中学校、79ページ以降の保護者アンケートになります。その中で低くなっているものとしては、「授業を分かりやすく楽しいものにしようと努力している」、「いじめなど人間関係のトラブルの指導を適切に行っている」であり、4段階評価で3を切っている結果となっています。また、子どもに関わるものとして「家庭学習」が低くなっており、「少人数指導が授業理解に有効」、「朝食を必ず食べて登校」が高い評価となっております。

生徒アンケートですが、「清掃活動」や「交通ルールを守る」が高評価となっており、唯一3点を切ったのが、「家庭学習」となっております。

光陵中学校、90ページになります。こちらは、保護者、教員、生徒それぞれ文言が少し違うんですが、このようにしてまとめております。保護者の中では、「楽しく学校生活を送っている」、「地域や保護者との連携」が3.2と高評価となっております。

生徒自身の評価については、「いじめは許されない」が最も高く3.9、「悩みの相談に先生方はしっかり聞いてくれる」が3.6と高評価になっています。これらの高評価は、間違いなく学校が日頃から丁寧に接している表れかと思われれます。低評価としては、ボランティア活動や地域行事参加というところで2.2、自ら進んで家庭学習が2.5と低くなっています。

大滝徳舜警学校、94ページになります。こちらは前期課程、後期課程まとめてのものとなっております。保護者アンケートでは、「家庭学習」、「体力」、「地域連携」が昨年度よりも上昇し、多くの項目で高評価となっております。下がっているところとしましては、「あいさつ」となっております。児童生徒の評価においては高評価が多いですが、後期課程における生徒指導の項目で「もっと意見を聞いてほしい」という記述もあり、少ない人数での集計ですのでふり幅が大きくなっていますが、もっと生徒達の意見を聞かなければいけないということで学校も捉えています。

以上、学校ごとの成果と課題についてご説明いたしました。最初のページに学校評価一覧として大きなくくりでまとめております。この中で気になるところとしましては、生徒指導問題行動の中で、「いじめ防止、早期発見、解決」の項目で8割を切る学校が出てきております。こちらについては、いろいろな要因はあるのですが、学校の方でも後手に回り、連絡、相談が遅くなってしまい、保護者にも理解を得られなかったなどで、こういう数字が出てきているかと思えます。それから、一番下の項目に各学校での低評価項目として主なものを挙げてみました。いろいろありますが、ゲームやネット利用、読書に関してが低くなっているかと考えております。授業につきましては、ICTを使って少しでもわかり

やすくというところで、概ね高い評価になっているところが多かったかと思ひますし、楽しく学校に通っているという項目も多くの学校で8割から9割というのが見られたかと考へております。

これらの評価を学校の方では真摯に受け止め、成果があつたもの、課題が浮き彫りとなつたものを全教職員で共有しております。そこから、次年度の新たな学校経営方針や学年・学級における経営計画の改善、または個人個人の課題として捉え、改善策を立てていくなどして取り組んでいる状況であります。

以上、説明といたします。

◎堀井市長

皆さまからご意見、ご質問等はありませんか。

◎影山教育長

一覧でパーセントが出てまして、参事から説明ありましたが、5段階でやったり、4段階でやったり、学校規模の違いもあるので一概には言えませんが、学校現場でやっていた時の要注意は8割を切っている評価、学校運営をしていた時に、分かりやすいのは授業を教える側に立っていくと、授業を教えて70%分かっている、30%分かっていないということは、10人中3人も分からない子を出してしまっているところもあつて、数値的な根拠は無いですが、7割になったら要注意で、次年度に向かって具体的な対策を立てていかなければいけないという話題が多いです。

◎岩本委員

まず全体の話になるんですが、せっかく統計を出していただけるのであれば、各学校の児童生徒数や回答率を出してもらえたらと思ひますし、特に一覧表については記載してもらえると見る方も評価しやすいと思ひます。あと、小学校と中学校では問題が全然違ふと思ひて、星の丘小中や大滝徳舜警について分けて出していただくと評価しやすいと思ひます。

また、我々医師の仕事もそうなんですが、患者さんの対応の我々の満足度、家族の満足度を考えた時に、学校評価と保護者評価がすごく差がある項目はあまり宜しくないかなと思ひますよね。東小学校の学力の部分、授業が分かりやすいで保護者が67%、学校評価が84%とか、保護者評価・児童評価もしくは学校評価、すごくあいているものが気になりますし、そういうところに課題があるのかなと思ひます。読書に関しては、どこの学校も低くなっているんですが、小学校の朝読書を見直してみるとというような機会があつてもいいのかなと思ひました。

伊達中学校のスマホのグラフですが、平日どのくらいの時間利用していますかで、4時間以上が20%、2時間以上だと半数以上が利用しているので、見えないところでのいじめの可能性を考えた時に、この辺にもすごく大きな難しい問題があつて、自分の想像以上の時間だったので、何かしら対策だったり、真剣に評価していく姿勢があつてもと思ひました。

◎堀井市長

内部ではやっているのかもしれませんが、学年別とかクラス別とか見て行かないと、全体の8割、9割というのを見ても意味が無いかなと思ひて、もうちょっと細かい属性できちんと見て行くというのが大事かなと。そもそものサンプル数が少ないところは仕方が無いので、基本的には学年やクラス単位で分析するようにしていただいて、そうすることで1学年上がった時に同様の質問でどういう傾向にあるのかということも見て取れるの

かなと思っています。先程、読書の話がありましたけれども、例えば読書頑張りましょうとか家庭学習頑張りましょうという学校経営方針を1年間やって、その読書の冊数であるとか、自己学習の時間が上がってきたという傾向が見えた段階で、学力も上がってきているのかなとか、もしくは学力と相関が無いのかなとか、そういったことも確認できると思うんですよ。ですので、学年ごとくらいでは見てほしいなという思いではあります。

あと、3段階であったり4段階であったりするのですが、ばらけさせる必要があるのかなと。どちらかという、学校間比較も大事だと思っていて、隣の学校は何でこういう回答が出ているんだろうという発見の中から、それぞれの学校でやっている教育活動の違いというのを検証するのが大事だと思うんですよ。だからできる限り、違う質問があってもいいんですが、コアな質問項目は決める、共通にする、回答の段階も一緒にする。そうすることで横比較もできますし、経年比較もできると、そういう風に全体の戦略を立てて学校評価をやらないと、あまり意味が無いかなと思っています。この結果から学校経営の改善に結びつくとか、各学級の先生方のマネジメントの仕方、生徒への接し方を変えるとということにも活用しないと活用方法としては弱いんじゃないかと思います。さらに、岩本委員のn数を示してほしいというのもまさにその通りで、さっきの保護者の授業のわかりやすいというところがパーセンテージが低いというのは、例えばn数が少ないとすると先生に対する不満が多い人が回答しやすい傾向になると思いますし、先生の教え方に不満がある人だけ中心に回答しているから、回答が低いと言える可能性もあるのでn数は大事かなと言えると思います。

◎平田委員

アンケートについては、全校生徒からもらっているということで良いですよ。

◎本所指導室参事

よろしいです。

◎岩本委員

保護者の回答率はどのくらいでしょうか。

◎本所指導室参事

70%程度になっております。

◎早瀬委員

保護者の回答率が、伊達小学校だと55.6%、伊達西小学校だと82.3%になっていますが、設問の出し方が違うのでしょうか。

◎本所指導室参事

以前は無記名でやっていたのですが、個別の案件に回答できないということで、現在は記名式でやっているのですが、記名にしてから逆に書きづらいということで減った時期もあります。なので、伊達小学校は低くなっているのかなと思いますが、伊達西小学校の回答率がなぜ高かったのかということまではおさえておりません。また、回答については、児童生徒、保護者ともにGoogleフォームで行っているのですが、集計作業について非常に楽になったため、先生方の業務改善にはなっています。

◎平田委員

Googleフォームで回答方式については統一したとのことですが、設問までは統一できなかったのでしょうか。

◎本所指導室参事

設問については、学校長が示す学校経営方針に基づいて項目を立てているので、学校ご

とに若干違いは出てくるのですが、市長がおっしゃるように、比較するのであれば、コアな質問は共通にして、その他は学校経営方針に合わせて設定するやり方もあると思います。

◎堀井市長

段階評価についても、3段階評価と4段階評価も違いますし、あと、2.8とか3.2とかの数値にしてしまうと物事の本質が見えなくなってしまうので、できれば、肯定的な意見と否定的な意見が出ていたので、きちんと見えるようにするとか、D I 値のように肯定側の意見と否定側の意見の差分を出したりするとか。ちなみに、回答できないとかわからないという選択肢は無いですよ。

◎本所指導室参事

学校によってはあるところもあります。

◎堀井市長

学校に対する子どもの満足度みたいな設問は答えられると思うのですが、いじめ関係の設問など保護者の目が行き届かなくて判断できないみたいな項目があると思うんですよ。そして、分からないという選択肢が無いと、BかCかとなって、心理的にはBを選択してしまうかなと思います。そういう時にどこを見るかとなれば、トップボックス分析というのをして、AとかDというのは非常に付けにくいんだけど、Aをつけるというのは本当に満足している人で、なので、学校に対する子どもの満足度もAが33.8%だからもっと伸びしろがあるなという見方もしなければなりませんし、体力のところはまあまあいいかなという層がすごく多い、本当は肯定と否定の意見を見ると、全体的には良く見えるんですが、Aのところにつけている人は少ないという見方をしていかないと、あまり意味が無いかなと。

◎早瀬委員

この結果は、保護者の方にはお配りしているのでしょうか。また、アンケートについては、今回の会議に際して行ったわけではないですよ。

◎本所指導室参事

結果はマチコミを通じて、保護者の方にお配りしています。アンケートについては、今回の会議に際して行ったわけではなく、そのため学校ごとの差異が出ているということもあります。

◎早瀬委員

先生方の負担を減らす意味も込めて、ベーシックな質問は教育委員会で用意して、学校ごとにプラスアルファの設問をつけて、評価の仕方も統一した方が我々も見やすいですし、先生方の負担が少しでも減れば、子どもたちを見る時間を取っていただきたいと思います。

◎岩本委員

先程、市長からの話の中にもありましたが、いじめの関係の設問が保護者と学校と児童生徒の評価が一番分かれているところで、それが設問によってすごく分かれてしまう、そういうところが改善の余地があるのかなと思います。

◎堀井市長

学年ごとに対応も違うと思うので、学校全体で見たら分からないことも、実は学年ごとに見た時には、明らかな課題・問題というのが発見できるんじゃないかなとも思いますし、アンケートってすごく難しく、例えばこの、学校はお子さんにかかわる相談について、きめ細かく誠実に対応していますかという設問は、ものすごくハードルが高い表現ですよ。あと、記名式か無記名式かということも、考える必要もあるのかなとも思い

ます。

#### ◎本所指導室参事

学校としても悩ましいところで、記名式にしてしまうと本音が出てこないかなという一方で、無記名式にしていた時は、担任を個人攻撃するような、かなりきつい事を書いてこられる方もいて、ただ無記名のために相手がわからず、変な詮索が入ってしまったりもしていました。それよりは記名式にしてオープンにすることで必要に応じては返答できるようにした方がということもありますし、本当に意見のある方は直接言ってこられるので、現在は記名式の学校が多いという状況になっています。

#### ◎影山教育長

市長からのご指摘の部分ありましたが、本当にいい機会だったなと参事とも話していました。学校評価というものは、国から導入を求められてからずっと20年以上は経っていて、それぞれの学校の校長先生が作る経営方針に基づいて評価を作るところがそもそもだったんですね、そして、長い年月を経て校長も変わるので、学校ごとにいろいろなものが蓄積して様々になって、学校のおあづけになって、教育委員会も提出はしてもらうのですが、これだと正直言って分析しようが無くて、学校評価が入った後から授業評価が入ってきたり、いじめ調査が入ってきたり、体罰も調査するようになって、学校は今調査物がとても多くて、そして私も経験あるんですが、最初のころは無記名でもきちんとデータは取れていたんですが、途中から誹謗中傷がひどくなって、そして記名にしなきゃいけないとなって、記名にしたらしたで反応があって、いろいろな事があって目的がずれてきているのかなと思うんですね。ですから、先程市長もおっしゃっていましたが、教育委員会でそれぞれの持つ役割を仕分けして、一定程度まとめないで市の教育としては市民の方にとすると、あまりバラバラ感があってもおかしいことになるので、それは整理する時かなと思ったんですね。ただ、もっと資料あるんですが、全部出そうとするととんでもない量になるものですから、参事の方で整理してくれたという形になっています。そういうところも含めて未来志向での意見もいただけるとありがたいと思いますし、この会議をいいきっかけにしたいと考えています。

#### ◎平田委員

やはり私は子どもの意見をもっと聞きたいなど。保護者の意見ももちろん大事だと思うんですが、一番は子どものための学校だと思うので、子どもの意見がどれだけ反映されているのかなと。伊達中学校の結果を見ているのですが、伊達中学校大丈夫なのかなというレベルかと思います。先生方も自信を無くしているし、子どもたちも不満を感じているという風に見てとれます。これを追っていくと、例えば伊達小学校、伊達西小学校もそうなんですが、道徳心、親切心、思いやりを学校で身に付けさせてほしいという意見もあり、学校側に委ねてしまっている部分も見られるので、家庭で指導するという余裕も無いのかなと。そういった状況で中学生になり、コロナ禍で参観日が1年に1回しかない状況で伊達中学校の参観日に行ったら、授業がすごく荒れていて、子どもたちが自由に話して授業になっていないという意見が出てましたが、それに対して子どもたちが授業中静かにしてほしいとか、気軽に相談できるところがほしいとか、子どもたちの意見を拾っていけば、見えてくるものではないのかなと思います。

また、ゲームにしてもオンラインでやり取りしているので、いじめ等があったとしても見えないですし、難しいですね。

#### ◎堀井市長



昔はゲームするにしても誰かと集まってやるというもので、その中ではコミュニケーションが生まれたり、ケンカしたりもありましたけど、通信になってしまったら、本当に顔も見えない形でやっているの、子どもの発達段階において、本当にいいのかなと思ってしまいます。

◎岩本委員

相手の親の顔も見えないというのがありますよね。友達の家に行って、お母さんに挨拶して、遊ぶという形だったと思うので、親の存在が無くなるというの怖いと思います。

◎本所指導室参事

4月に行う全国学力・学習状況調査の質問紙があるのですが、その中でスマートフォンの所有率が大体わかるのですが、令和5年の小学6年生と中学3年生ですと、小学6年生が76%、中学3年生になると97%になっており、中学3年生になるとほぼ持っているということになります。

◎平田委員

そのうえで質問設定をきちんとやっていかなければ、見えてこないものも多々あるのではないかと思います。

◎堀井市長

すごくいい質問が多いですし、本質をついているところもあると思いますので、せっかくであれば共通化できればと思います。また、アンケートをする頻度も1～2回となっていたのですが、期中にできれば途中で改善できることもあると思います。

◎本所指導室参事

数年前は年に1回だったのですが、ここ最近年2回が増えてきて、前後期に分けて前期で受けたものを後期に生かそうという学校が増えていきます。

◎早瀬委員

先程、学校の調査物が多くてという話がありましたが、先生方の負担を減らすという意味で、そういうものとラップさせながらというのはできるのでしょうか。

◎影山教育長

例えば、全国学力・学習状況調査になると、小学校6年と中学3年生で、調査対象が限られているということもあります。

◎堀井市長

年2回で先生方の負荷がということであれば、デジタル人材を上手く活用して、テンプレートの作成やデータの集計等をしてもらうということもできるのではないかなと思いますし、サポート体制を上手くして、先生方の負担感も減らしながら、2回しっかり実施するというやり方もありかなと思います。

また、中学生の家庭学習についてですが、定着があまり図れていないというのは、塾に通っているから家庭学習をしないと、する時間が無いということなのではないでしょうか。また、塾も行っていないし、家庭学習もしていないということなのではないでしょうか。

◎本所指導室参事

塾に行っている子は家庭学習には入っているの、塾にも行っていないし、家庭学習もしていないということになります。学校の方でも、家庭学習計画というのを作ってやっているのですが、それが定着しているかとなると、家庭や個人の差がすごく大きいというのはあります。

◎早瀬委員

宿題というのは、どのようになっているのでしょうか。

◎本所指導室参事

基本的には毎日出してまして、それに加えて学校で進めているのは自学で、家庭学習で学力を伸ばそうというよりは、学習の定着の確保というところが大きくなっています。宿題があるから机に向かって、次に自分で課題を見つけて挑戦していくという形になります。

◎堀井市長

それこそ、スマホやタブレットでできる問題集があってもいいのかなと思います。

◎本所指導室参事

端末の持ち帰りを進めているのですが、そちらが整えば、AIドリルであったりとか、ネット環境が無くてもできるPDFの問題集もあるので、そういうものも少しずつやっていこうということで学校で進めています。

◎平田委員

保護者アンケートの中で、伊達市に住んでいると職業選択が狭くなってしまうので、いろんな目標のために、もっといろんな職業を見せてほしいというのもありました。それはその通りだと思っていて、目標をすぐ見いだせるわけではないでしょうけど、看護師さんになりたいとなれば、そのために勉強するでしょうし、目標を早く見つけさせてあげるのも大事なかなと思いました。

◎堀井市長

今の子どもたちはあれだけネットとかSNSに触れていれば、自分達で取りに行く事も出来るかなとも思います。

◎岩本委員

今まで学校の先生方以外が学校評価を評価したことが無かったと思うので、いい機会であったと思います。

◎影山教育長

今一度、この学校評価について、色々な調査物に仕分けしてやっていって、家庭を含めた全体の教育環境を整備していくために、数値で分析していく事が必要だと改めて感じたところですので、令和6年度中に整理できるように動いていきたいと思いますので、案がまとまったところで情報提供できればと思います。

◎堀井市長

数字の良い悪いを見るのが目的ではなくて、結果がいいのに越したことはないですが、悪かったら悪かったで、どう改善するかという目標を立てれば良いので、学校の先生方にも変にプレッシャーが無いようにきちんと制度構築できればと思いますし、せっかくいいことをしているので、あとはどう学校経営に活用するかというところを意識していただきたいと思います。

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎堀井市長

それでは、協議第1号につきましては、事務局の報告のとおり取り扱いたいと思います。

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎水野企画財政課長

これもちまして、第13回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 （16時15分）